

参考 1

第4次静岡市総合計画 基本構想・基本計画 原案

「世界に輝く静岡」の実現に向けて (抜粋)

2022.7

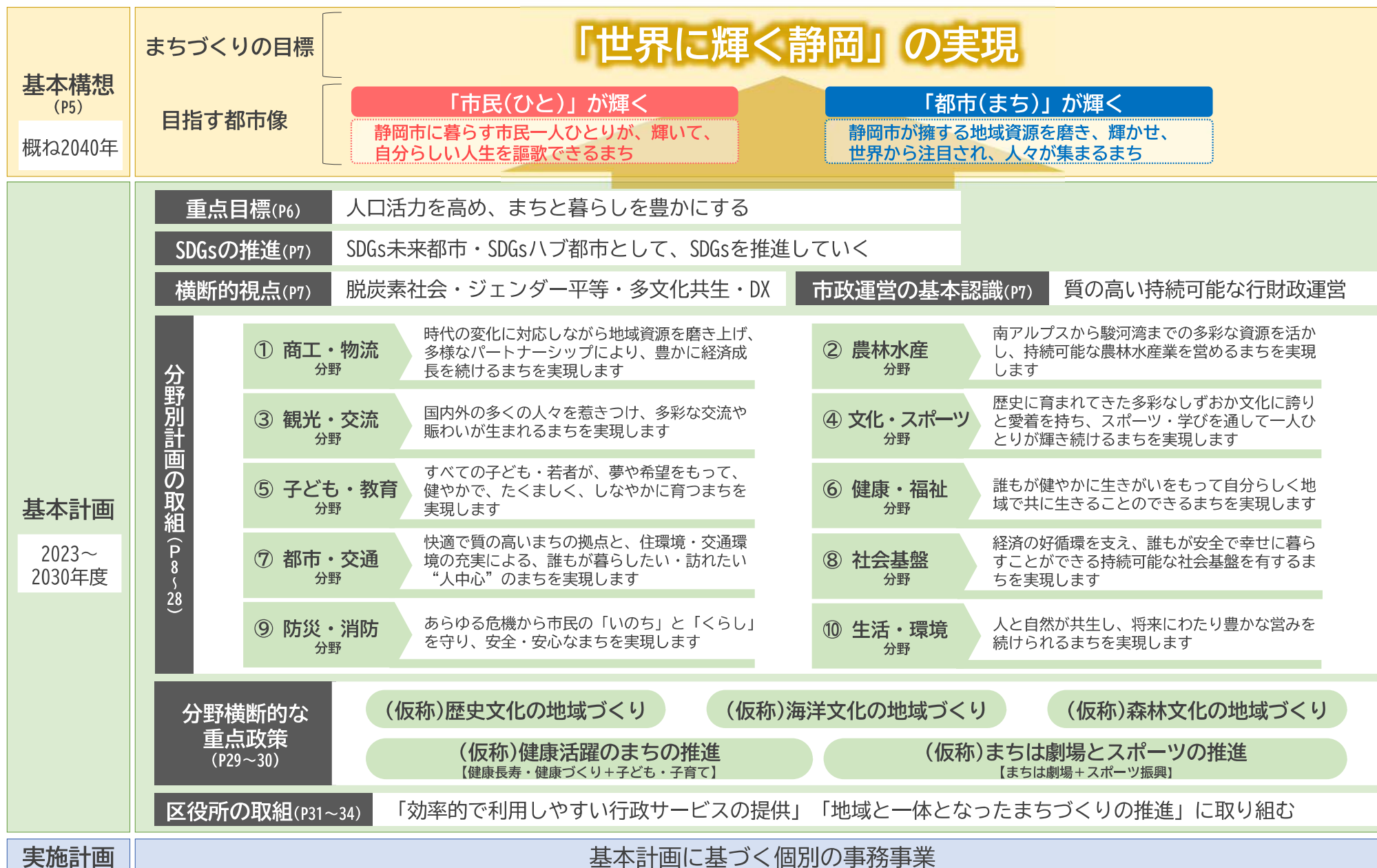
Shizuoka City Comprehensive plan

パブリックコメント用資料

02

4次総全体像

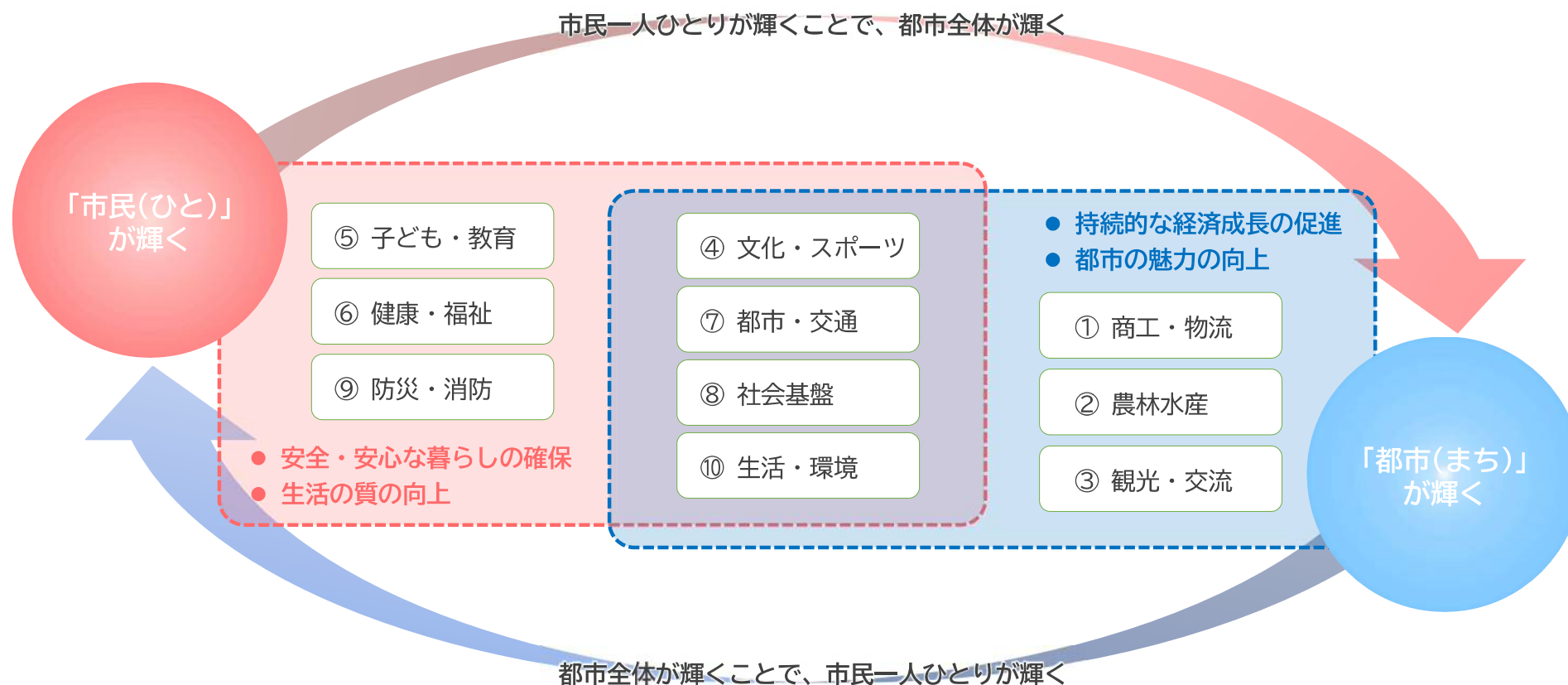
市議会の議決事項



04 基本計画 — 分野別計画の取組

分野別計画の取組の考え方

- 重点目標である「人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする」の達成に向けた中核をなす取組として、10の分野別計画を定めます。
- 分野別計画は、各々が基本構想で定める2つの都市像の実現に寄与する役割を担っています。「市民(ひと)が輝く」ために必要な「安全・安心な暮らしの確保」と「生活の質の向上」、そして、「都市(まち)が輝く」ために必要な「持続的な経済成長の促進」と「都市の魅力の向上」です。
- 10の分野別計画の取組を総合的に推進することで、市民(ひと)が輝き、都市(まち)が輝く好循環を創出していきます。



04 基本計画 — 分野別計画の取組

① 商工・物流 分野

1 2030年の目指す姿

時代の変化に対応しながら地域資源を磨き上げ、多様なパートナーシップにより、豊かに経済成長を続けるまちを実現します

2 分野の役割

商工業・物流業は消費や雇用といった地域の経済活動を支え、市民の豊かな暮らしや都市の発展に欠かせない重要な産業です。

本市は東西の交通の要衝としての地理的要件や、国際拠点港湾に位置付けられる清水港を有することから、人や物が盛んに交流する商業都市、港湾都市として栄えてきました。

また、駿府の職人の技術を受け継ぐ伝統工芸とそれらを礎とした家具、木製品、プラスチックモデルなどの地域産業が根付くとともに、清水港を中心に造船業、食品関連産業、機械器具製造業などが発展するなど、その歴史の中で多様なもののづくりの拠点が形作られています。

幅広い分野の業種が多彩にバランスよく集積していることは、本市の大きな強みであり、それらの多くの企業の活躍に支えられ、本市経済は成長を遂げてきました。

しかしながら、人口減少や新型コロナウイルスの感染拡大など社会経済情勢の変化の中で、これからは人々が活き活きと働き、豊かに暮らしていける都市として発展を続けていくためには、本市の歴史や文化の中で培われてきた地域資源を最大限に活用しつつ、経済成長の主役である企業をはじめとする多様な関係者との協力関係を強化していく必要があります。

そこで本市は、時代の変化に対応しながら地域資源を磨き上げ、多様なパートナーシップにより、豊かに経済成長を続けるまちを実現していくことを目指します。

3 関連するSDGsのゴール



4 現状と課題

(1) 地域経済の更なる成長

社会経済情勢の変化の中で、人々の価値観の変化やデジタル化等の技術革新の進展が加速しています。

地域経済が成長を続けるためには、これらの新しい価値観や技術を取り入れ、新事業等の創出を図っていく必要があります。

そのため、企業をはじめ多様な関係者との連携の強化を図るとともに、新規創業や企業の先進的な取組に対する支援を進めていきます。

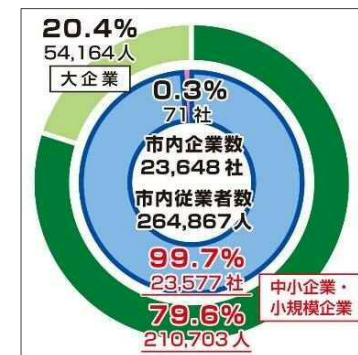


(2) 地域を支える中小企業の振興

市内企業の99.7%は中小企業に分類され、市内従業員の79.6%の人々が働いています。

これらの中小企業はその企業活動により市民の雇用や市内産業を支えるだけでなく、地元に着目し地域社会貢献の主体としても重要な役割を持っています。

地域のまちづくりに欠かせない中小企業ですが、経済のグローバル化や後継者不足等、事業の継続には様々な課題を抱えています。中小企業の振興に向けては、それぞれの課題や成長段階に応じたきめ細やかな支援が必要となります。



【出典】中小企業庁 公表資料
(平成30(2018)年11月)を加工

(3) 社会基盤の整備の進展と更なる利活用

中部横断自動車道の開通により、山梨県、長野県方面への交通アクセスが向上し、清水港では新興津ふ頭岸壁延伸事業など、港湾機能強化に向けた整備が進められており、物流機能の更なる高度化が図られています。

物流業の成長に向けては、整備された清水港の輸送能力に見合う貨物の誘致に向けた活動を推進し、広域物流の実現を図る必要があります。



(4) 生産年齢人口の減少による人材不足の懸念

平成27年には418,231人だった生産年齢人口は令和12年には365,053人まで減少するとの推計が示されており、人材不足の深刻化が危惧されます。

企業が求める人材の育成と多様な価値観を尊重した働きやすい環境づくりを進めるとともに、人と企業の出会いの創出により、地域における雇用を確保していく必要があります。



【出典】各年国勢調査(総務省)
日本の地域別将来人口推計(国立社会保障・人口問題研究所)を加工

5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 商業、製造業の市内総生産額
- ▶ 指標② 清水港のコンテナ取扱個数、市場取扱量
- ▶ 指標③ 働きやすいまちだと思う市民の割合

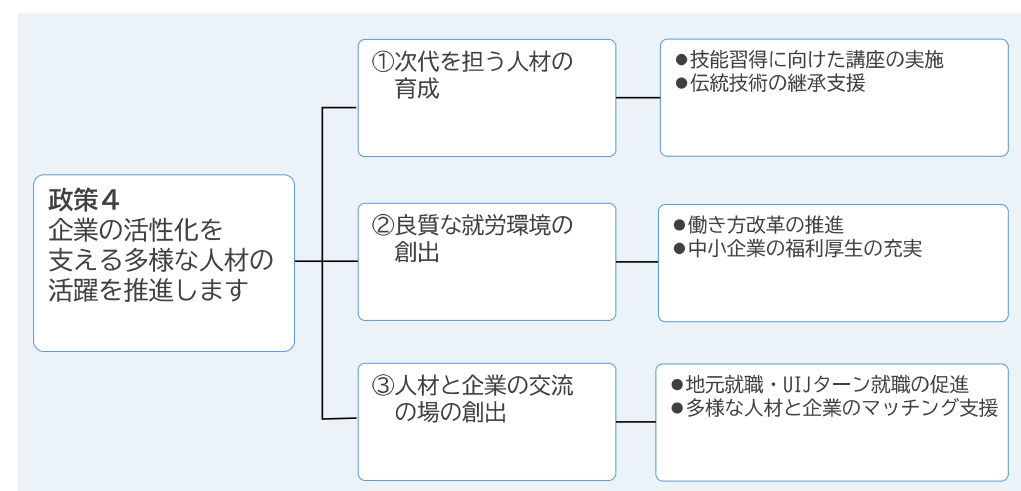
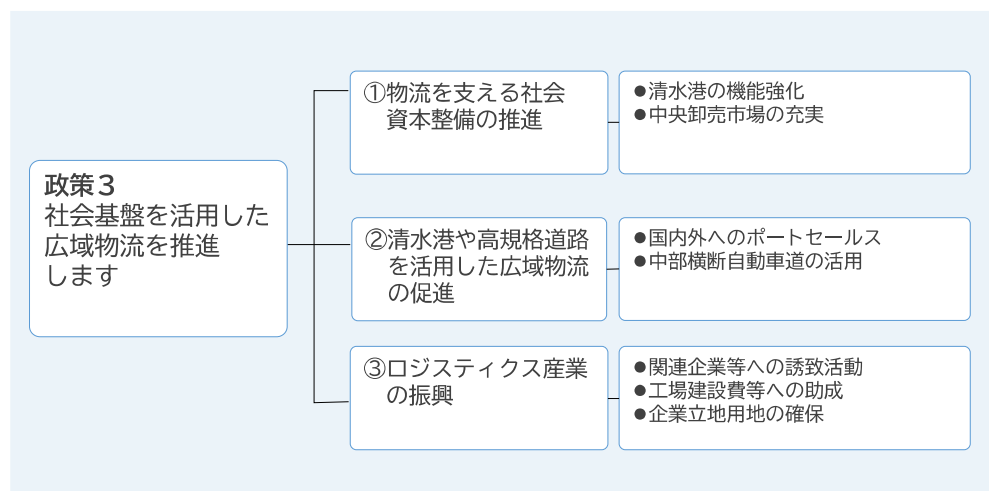
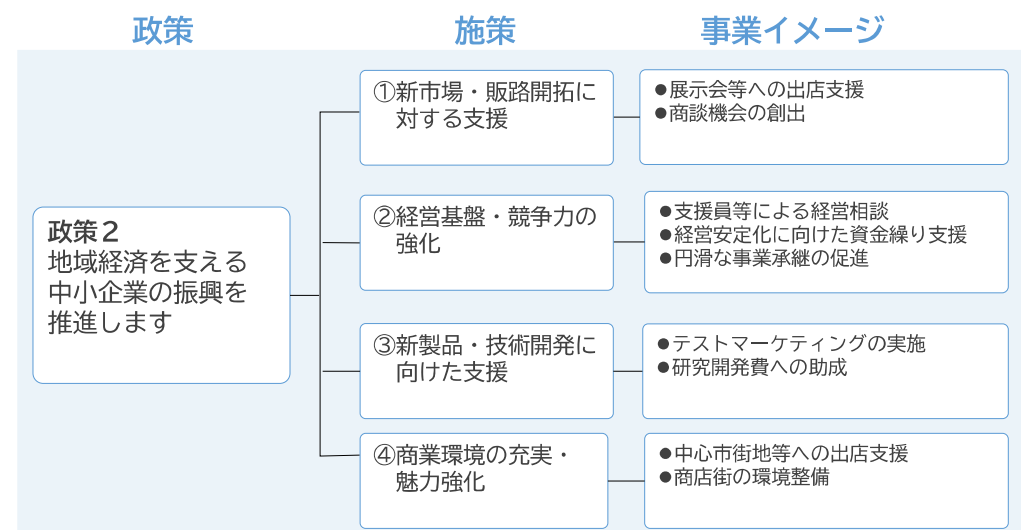
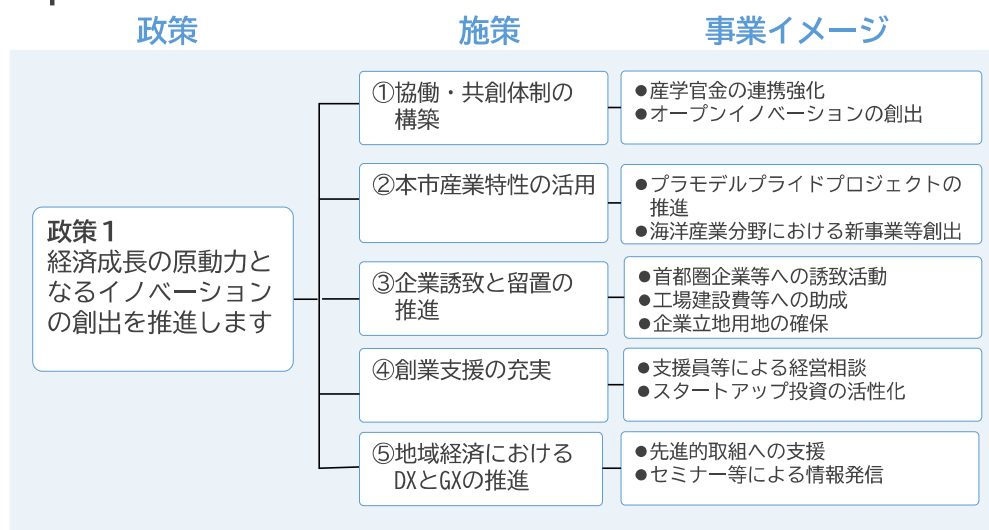
参考値：Ⅰ（商業）460,774千円、Ⅱ（製造業）888,307千円（R1 しずおかんの地域経済計算）

参考値：Ⅰ：562,610TEU（コンテナ取扱量）、Ⅱ：71,394t（R3 清水港管理局統計、市場概要）

参考値：52.1%（R3 静岡市市民満足度調査）

① 商工・物流分野

6 政策・施策体系図



04 基本計画 — 分野別計画の取組

② 農林水産分野

1 2030年の目指す姿

南アルプスから駿河湾までの多彩な資源を活かし、持続可能な農林水産業を営めるまちを実現します

2 分野の役割

南アルプスから駿河湾までの多彩な資源を有している本市にとって、農林水産業は、地域経済の発展と自然環境の保全、良好な景観の形成など重要な役割を果たしますが、所得の減少、高齢化等による担い手不足、それらに伴う耕作放棄地の増加など多くの課題に直面しています。

このような課題に対応するため、人材の育成や生産基盤の構築、ブランド化等により、持続可能な農林水産業への転換を進め、将来の担い手が夢を持って農林水産業を営める環境を構築し、農林水産業の持つ生活環境に必要な機能の維持を図っていきます。

3 関連するSDGsのゴール



4 現状と課題

(1) 急がれる担い手の育成・確保と受け入れ環境の整備

本市の農林水産業における従事者は年々減少しており担い手の確保や、従事者にとって魅力的な就労環境づくりが求められています。

また、国においては地域にとって必要な人材となる業種等を問わず農業に従事する多様な担い手の確保に向けた動きが強くなっています。

このほか、生産物価格の低迷や新型コロナウイルスの感染拡大、ウクライナ情勢等による資材の高騰などを受け、従事者の所得低迷が懸念され今後、省力化や効率化といった次世代型農林水産業への転換が必要とされています。

そのため、スマート農業など先端技術の導入による作業効率の向上や次代を担うビジネス感覚豊かな担い手の育成・支援を進めていく必要があります。



【出典】2020年農林業センサス

(2) 作業効率の高い生産基盤の確保と地球環境に配慮した農林水産業の推進

畑地総合整備事業により農地の集約化・平坦化への取組が進められ、主に清水区内では生産性が向上した農地が整備されています。

一方で、本市の農林業の多くは、急傾斜地等小規模で生産性の低い土地で行われており、引き続き農地の集約化・平坦化が求められています。

また、近年の豪雨や気温上昇、黒潮の蛇行などの地球環境の変化が農林水産業における重大なリスクの1つとなっており、収量減少や品質低下など生産現場に大きな影響が生じています。

今後は、災害に強く、安全・安心な農林水産施設の整備や従事者と消費者双方の地球環境に対する理解を深めることが必要となっています。

	実施中地区	完了地区	計
美河区	—	1地区 13.6ha	1地区 13.6ha
駿河区	2地区 31.1ha	—	2地区 31.1ha
清水区	3地区 111.0ha	8地区 245.3ha	11地区 356.3ha
計	5地区 142.1ha	9地区 258.9ha	14地区 401.0ha

【出典】静岡市調べ



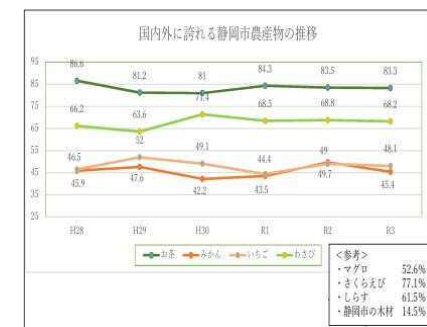
(3) 世界に誇れる農林水産物の磨きあげによる静岡市ブランドへの期待

オクシズ等を中心に栽培されているお茶やみかん、わさびなど、温暖な気候や歴史・文化を背景とした全国的にも認知度の高い農産物を有しています。

また、日本で唯一駿河湾（しずまゑ）だけで水揚げされる桜えびや県下有数の水揚げを誇るしらすなど地域固有の水産物があり、世界に誇る農林水産物が充実しています。

しかし、主要な農産物であるお茶などの価格低迷が続いており、お茶やわさびなどの特産品や地域を含めた「静岡市ブランド」の強化や普及が求められています。

今後は、地産地消や消費者ニーズに合わせた商品の高付加価値化、中部横断自動車道の開通を契機とした新たな販路の拡大などに取り組むことが必要となっています。



【出典】静岡市調べ

(4) オクシズの地域資源の保全と活用による販わいづくり

オクシズ地域は、公益的機能を担う森林・農地等を有するだけでなく、お茶やわさびなどの農産物や豊かな自然環境といった地域資源を有しています。

しかし、基幹産業である農林業の低迷や、少子高齢化に伴う人口減少が進み、コミュニティの維持が困難な地域も生じている現状にあります。

そのため、オクシズ地域の持続的な発展と地域で暮らし続けることができる環境の構築を目指し、様々な取組を進めていくことが必要となっています。



【出典】静岡市調べ

5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 農水産業における1人当たりの販売額
- ▶ 指標② 市民が市産の農林水産物を国内外に誇れる地域資源であると思う割合
- ▶ 指標③ オクシズ地域に住みたいと思う市民の割合

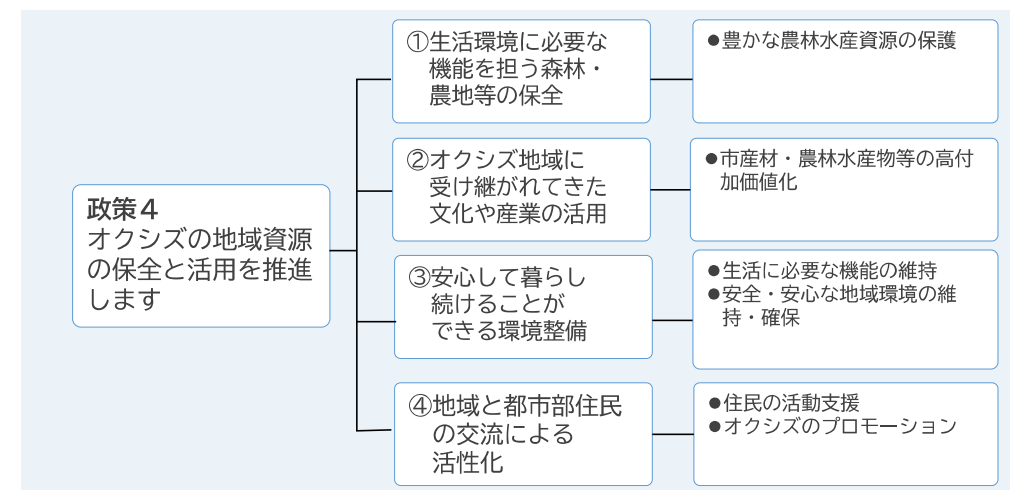
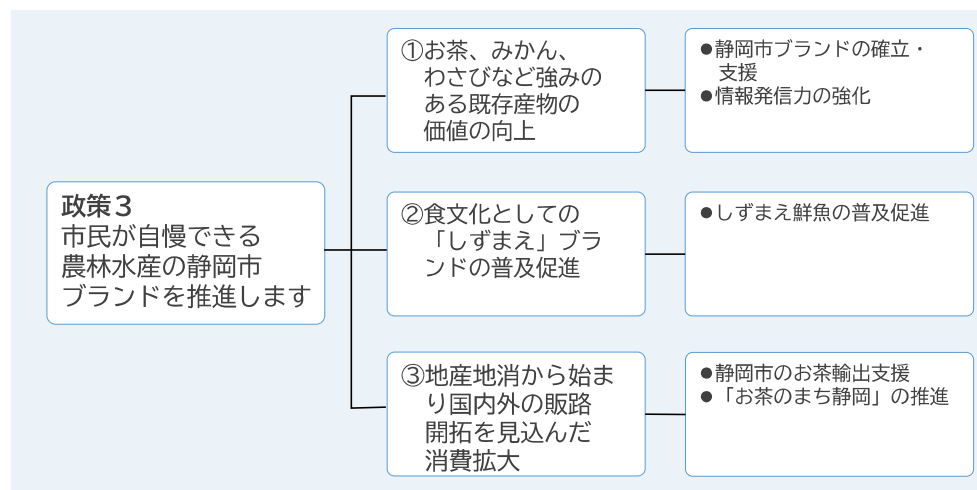
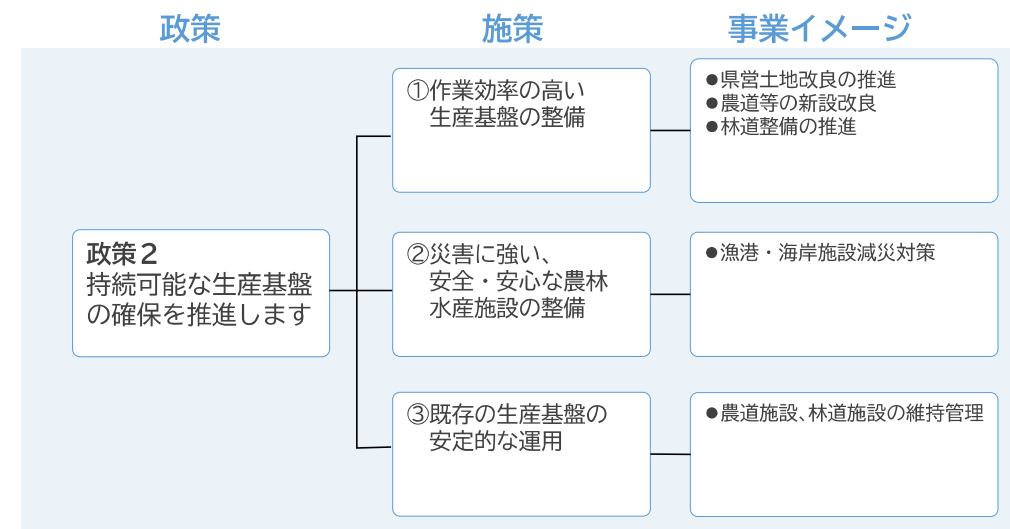
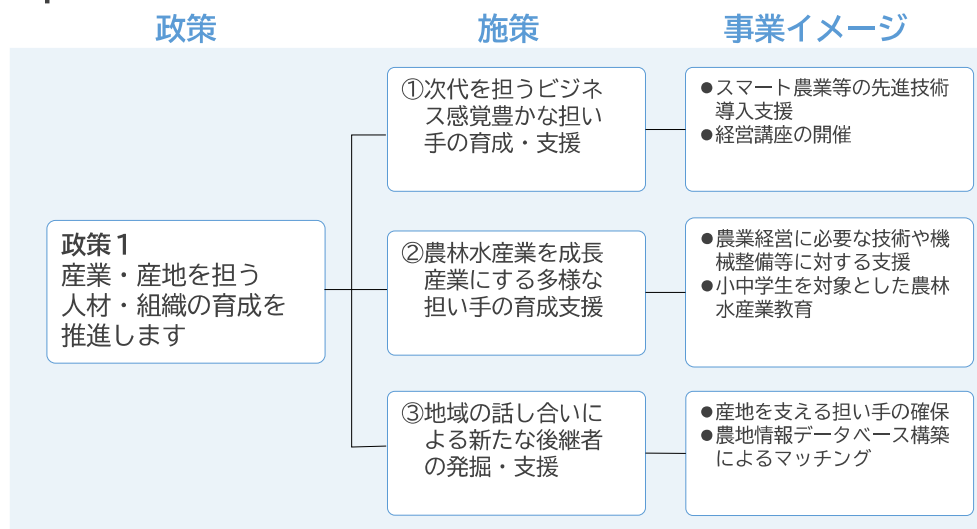
※算定方法検討中

参考値：56.3% (R3 静岡市農産物等に関するアンケート調査)

※4次総からアンケート調査実施予定

② 農林水産分野

6 政策・施策体系図



04 基本計画 — 分野別計画の取組

③ 観光・交流 分野

1 2030年の目指す姿

国内外の多くの人々を惹きつけ、多彩な交流や賑わいが生まれるまちを実現します

2 分野の役割

観光は、ホテル・旅館、交通機関にとどまらず飲食サービス業や農業・漁業など関連する産業の裾野が広く、さらに観光によってもたらされる消費は地域経済に広く波及し、雇用を生み出すなど重要な役割を果たします。

一方で、環境への配慮や観光と市民生活との調和など、時代の潮流を見据え、SDGsの考えを取り入れた持続可能な観光施策を講じることが求められています。

そこで、本市に存在する地域資源を磨き上げ、静岡市ならではのコンテンツを来訪者に提供し、国内外から多くの人々を呼び込むことで、市民との交流を図りながら、地域経済の活性化を図っていきます。

3 関連するSDGsのゴール

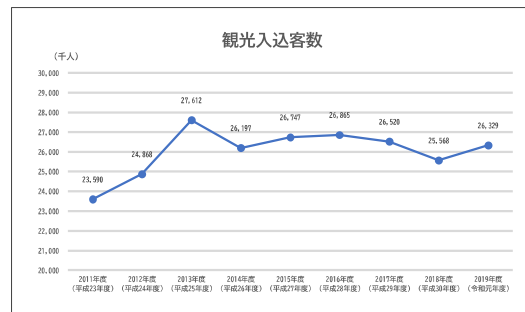


4 現状と課題

(1)世界に誇れる地域資源の活用による国内外からの誘客

本市には、世界文化遺産富士山の構成資産「三保松原」、日本三大美港「清水港」、ホビー産業など世界に誇れる地域資源が存在します。また、国宝久能山東照宮や駿州の旅日本遺産をはじめとする歴史資源、お茶・マグロ・しずまえ鮮魚などの食、南アルプスの山々等オクシズの豊かな自然、ホームタウンチームを始めとしたスポーツなど、本市ならではの魅力を有しています。

今後は、人々を多く呼び込むとともに、市民の暮らしや自然環境にも配慮をし、将来に渡り住民と来訪者の双方が満足する観光を推進していく必要があります。



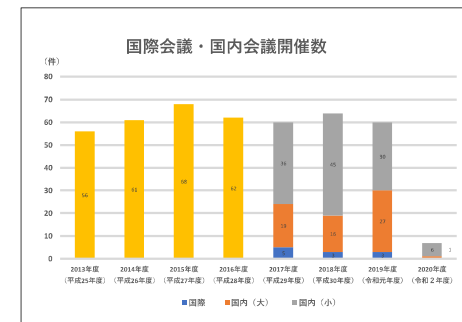
【出典】静岡市調べ

(2)効果的な情報発信と社会情勢の変化に対応した誘客と交流の推進

デジタル技術等の進歩などにより、人々が観光情報を入手する方法も大きく変化してきました。観光情報を発信する際には、観光客が情報収集に用いる媒体や、狙うべきターゲットを見極め、効果的・積極的な情報発信を行っていく必要があります。

また、新型コロナウイルスの感染拡大などの影響により、MICEの誘致や海外との交流が困難になりました。しかし、こうした状況下でも、オンライン交流などの新たな交流の方法も見出されました。

今後は、このような社会情勢の変化にも柔軟に対応できるような国内外からの誘客や交流の推進が求められています。



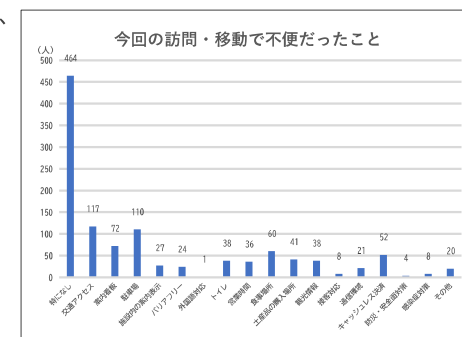
【出典】静岡市調べ

(3)来訪者へのおもてなしと再訪を促す取組の充実

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、人々の生活スタイルは大きく変化し、観光の在り方も変化してきました。ポストコロナを見据え、今後は外国人観光客も回復することが想定されます。

快適で安心して観光を楽しんでもらえるように、施設改修のほか、看板の多言語化など、誰にとってもやさしい「おもてなし」を提供することが求められています。

また、魅力ある地域資源同士をつなげ、周遊を促す取組を進めることで、観光客が静岡市の魅力に多く触れる機会を創出し、観光客の満足度と再訪意欲を高めていきます。



【出典】するが企画観光局調べ

(4)地域の特色に合わせたまちなかの賑わいづくり

地域の特色を活かしたまちは国内外の人々を惹きつけ、活発な交流や賑わいを生み出します。

本市では、3つのグランドデザインを策定し、これらをもとに地域の特色に合わせたまちづくりを進めています。静岡都心では、歴史博物館や大道芸ワールドカップなど数多くの歴史資源や静岡特有の文化資源、清水都心では、海洋文化施設の整備や清水みなと祭りなど清水伝統の海洋文化、草薙・東静岡副都心では、アリーナの誘致などスポーツや文化芸術の集積を活かし、賑わいを創出します。

そして、まちなか同士で連携を図ることで、相乗効果を生み、市域全体の活性化を図っていく必要があります。

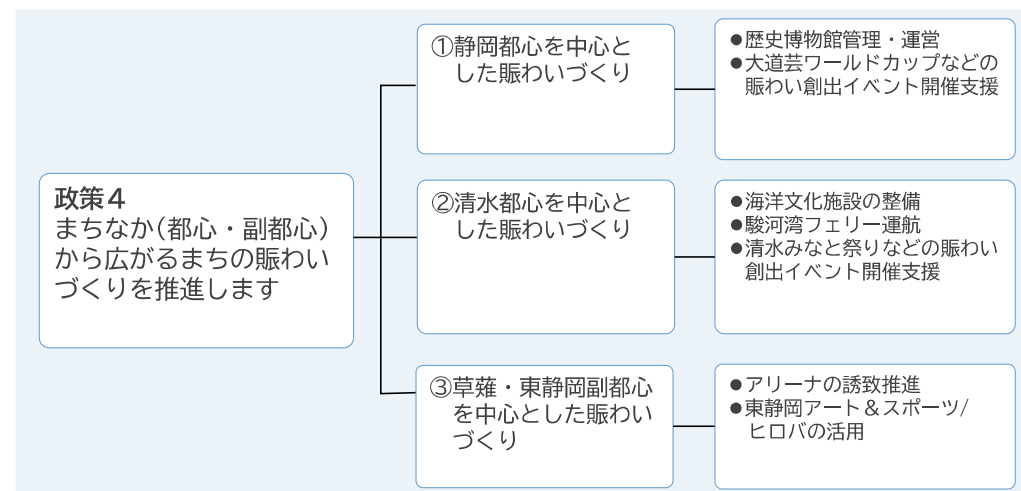
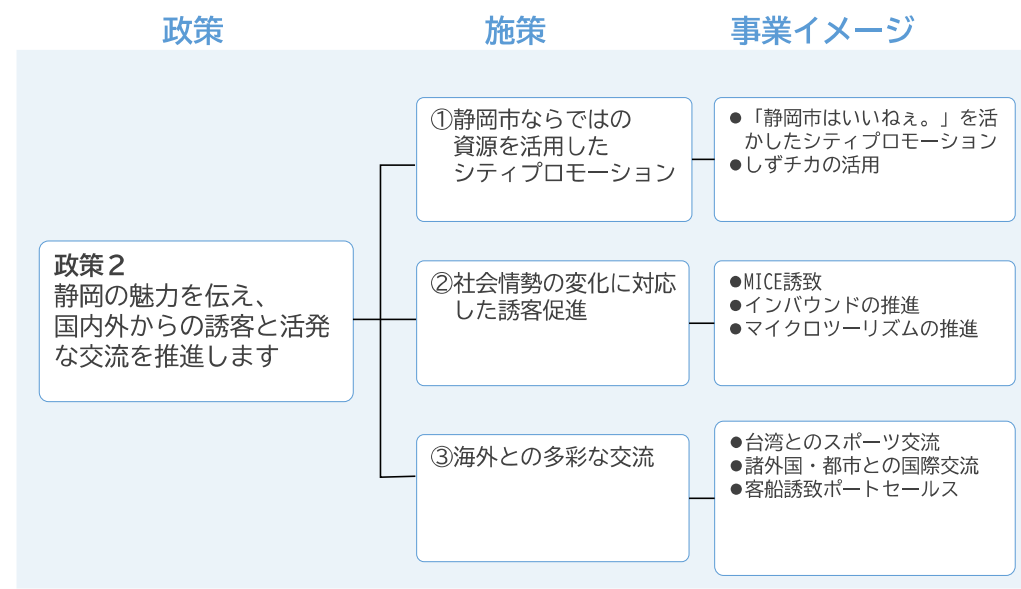
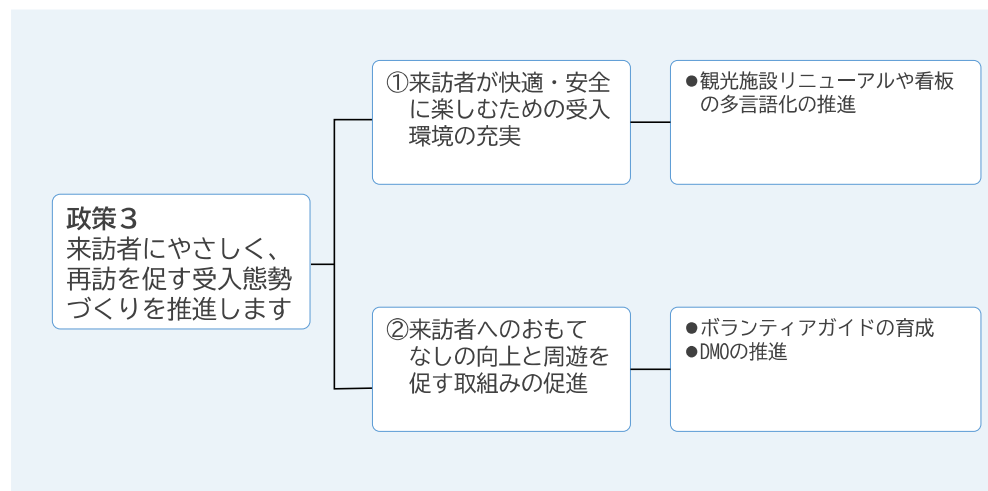
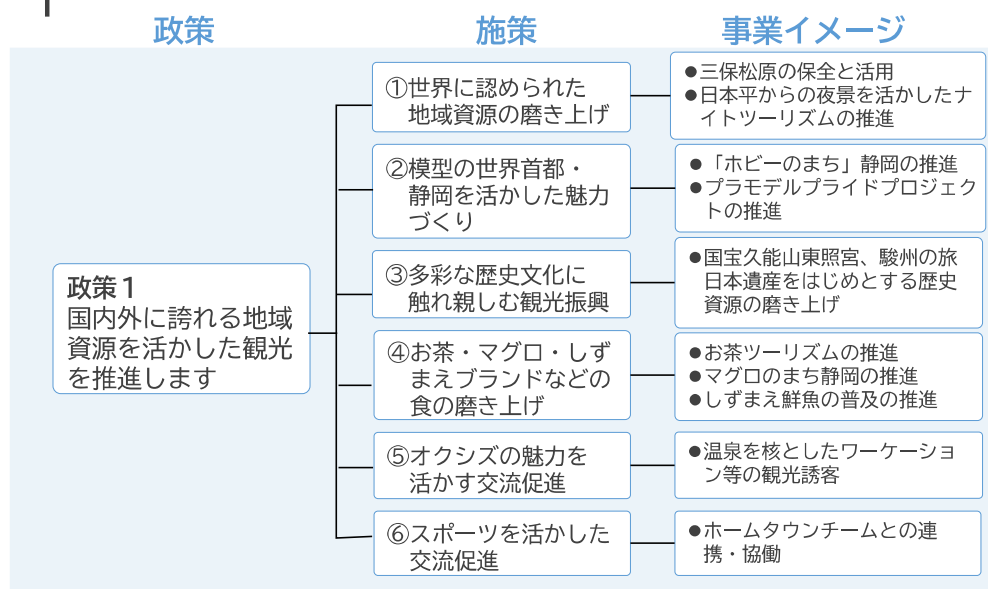


5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 観光交流客数 参考値：12,171,352人 (R2 静岡市調べ)
- ▶ 指標② 観光消費額単価 参考値：24,313円 (R3秋 (公財)するが企画観光局中部5市2町来訪者調査)
- ▶ 指標③ 来訪者の満足度 (NPS値) 参考値：30.7 (R3秋 (公財)するが企画観光局中部5市2町来訪者調査) ※NPS値：来訪者が静岡市に対して有する愛着度を図るもの
- ▶ 指標④ 来訪者の再訪意向 参考値：78.4% (R3秋 (公財)するが企画観光局中部5市2町来訪者調査)

③ 観光・交流分野

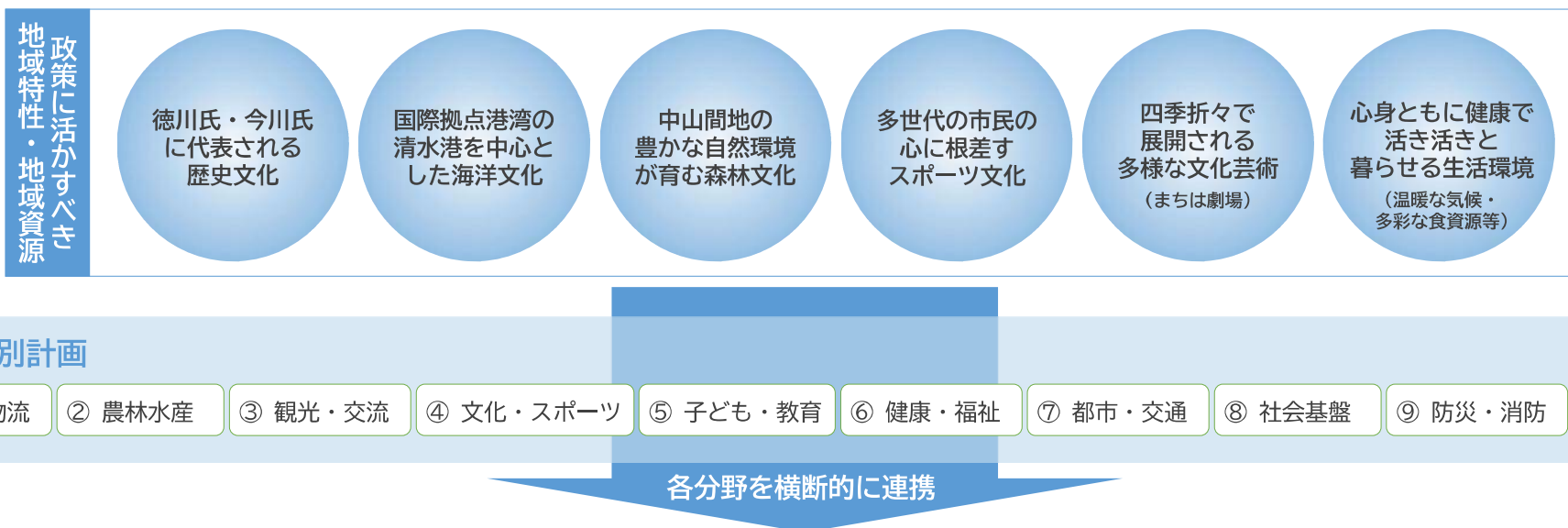
6 政策・施策体系図



04 基本計画 — 分野横断的な重点政策

分野横断的な重点政策の考え方

- 4次総においては、まずは10の分野別計画の取組を総合的に推進することで、基本構想で定める2つの都市像の実現を目指していきます。一方で、限りある経営資源を有効に活用し効率的に各種施策を進めていくためには、静岡市の地域特性や地域資源を最大限に活かした、分野の枠組みにとられない大局的な視点での取組も必要です。
- こうした考えのもと、各分野を横断的に連携させて重点的に取り組んでいく5つの政策を定めます。この5つの重点政策を、「『世界に輝く静岡』の実現」に向けた取組を加速させる推進力(エンジン)として位置付け、進めていきます。



分野横断的な5つの重点政策

(仮称)歴史文化の地域づくり

(仮称)海洋文化の地域づくり

(仮称)森林文化の地域づくり

(仮称)健康活躍のまちの推進 【健康長寿・健康づくり+子ども・子育て】

(仮称)まちは劇場とスポーツの推進 【まちは劇場+スポーツ振興】

※令和4(2022)年3月に公表した骨子案では、重点政策として「(仮)7つの柱」を位置付けており、その後、パブリックコメントのご意見や市議会会派からの政策提言などを踏まえ、5つの重点政策として見直しを行いました。(3ページ参照)

04 基本計画 — 分野横断的な重点政策

重点政策の目的・取組の方向性など

(仮称) 歴史文化の 地域づくり



目的・考え方

- 静岡都心では、商都として育まれてきた都心機能の更新に加えて、徳川氏、今川氏に代表される多くの歴史資源の活用による経済活性化を目指すまちづくりが求められています。
- これまで、葵舟の運航や駿府ホリノテラスの空間活用、東御門・巽櫓のリニューアル、静岡市歴史博物館の建設などを進めてきました。
- 4次総では、これまでの取組を継承・発展させ、市民が静岡市に誇りと愛着を持つとともに、徳川氏、今川氏を中心とした歴史資源を活用し、世界中から人が集まり駿府城公園周辺が賑わうことを目指して、取組を進めていきます。

取組の方向性案

- ▶ 駿府城公園周辺の賑わい創出
- ▶ 市民の歴史認識の醸成 など

(仮称) 海洋文化の 地域づくり



目的・考え方

- 清水都心では、清水港が駿府外港などの長い歴史を経て国際拠点港湾として発展し、地域の経済と生活に貢献することで、港を核とした清水独自の海洋文化が育まれてきました。
- これらの特色を活かしたまちづくりを進めるため、これまで、港湾整備や港のブランディング事業、客船による賑わい創出などを進めてきました。
- 4次総では、これまでの取組を継承・発展させ、「駿河湾」や「清水港」を活かし、産業・研究・観光が生まれ高め合う「国際海洋文化都市」として、清水港周辺が賑わうことを目指して、取組を進めていきます。

取組の方向性案

- ▶ 清水港周辺の賑わい創出
- ▶ 海洋関連産業の発展 など

(仮称) 森林文化の 地域づくり



目的・考え方

- 静岡市の市域の約80%を占める中山間地域は、南アルプスをはじめとする豊かな自然と人の営みが共存した貴重な地域であり、「オクシズ」の呼称で市民に親しまれてきました。
- また「オクシズ」は、お茶やわさび、みかんなどの農作物や心身を癒す温泉、伝統芸能など多様な地域資源を有しており、地域経済の発展と資源環境の保全、良好な景観の形成など重要な役割を果たしています。
- 4次総では、それらの地域資源をさらに磨き上げるとともに、都市と山村が支え合い、地域資源循環を生み出す持続可能な中山間地域の実現を目指して、取組を進めていきます。

取組の方向性案

- ▶ オクシズの生活機能維持
- ▶ 自然環境の保全と経済活性化の両立 など

(仮称) 健康活躍の まちの推進

【健康長寿・健康づくり・子ども・子育て】



目的・考え方

- 少子高齢化が進み現役世代が減少していく中で、社会の活力を維持、向上させていくため、多様な就労・社会参加の促進や、健康寿命の更なる延伸の必要性が高まっています。
- また、介護と育児の「ダブルケア」や、子どもが家族の介護や世話に忙殺される「ヤングケアラー」などの複合的な課題のほか、医療的ケア児や発達障害児などの特別な支援を必要とする子どもや引きこもりへの対応強化も必要となっています。
- 4次総では、年齢の壁、制度の縦割りの壁を超え、切れ目ない包括的な支援を強化しながら、全世代の市民が心身ともに健康で長生きし、役割を持ち活躍できる地域づくりを目指して、取組を進めていきます。

取組の方向性案

- ▶ 健康長寿・全世代活躍、健康づくり
- ▶ 困難を抱える子どもへの支援 など

(仮称) まちは劇場と スポーツの推進

【まちは劇場・スポーツ振興】



目的・考え方

- 静岡市には、人々の心を豊かにする大道芸、演劇、音楽などの『文化・芸術』や、サッカーをはじめとした『スポーツ』が地域に根付いています。
- さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や静岡市独自の「まちは劇場」の取組により、市民の文化・芸術やスポーツに対する関心が一層高まっています。
- 4次総では、この静岡市に根付いた『文化・芸術』と『スポーツ』の力を活かし、市民の心を一つにするとともに、様々な人が交流することによる賑わいの創出を目指して、取組を進めていきます。

取組の方向性案

- ▶ まちは劇場の推進
- ▶ スポーツ環境の充実 など